

## サポート体制

### 国際学会発表奨励金制度

(スポーツ健康科学会からの補助制度)

外国で開催される国際学会で筆頭発表者(口頭・ポスター)として出席する場合、前期課程大学院生には20万円、後期課程大学院生には30万円を国際学会発表奨励金として支給します(在学中に1回)。

### 国内学会発表奨励金制度

(スポーツ健康科学会からの補助制度)

国内で開催される全国規模の学会(国際学会も含む)で、筆頭発表者(口頭・ポスター)として発表する場合、奨励金を支給します(年度内に2回)。

### 英語外部試験の受験料補助制度

(スポーツ健康科学会からの補助制度)

英語能力向上のため、TOEIC®LISTENING AND READINGテスト、TOEFL®テスト、IELTS、CASECの英語外部試験の受験料を補助します(在学中に1回)。

## TOPICS

### 国立長寿医療研究センターと教育・研究に関する協定を締結

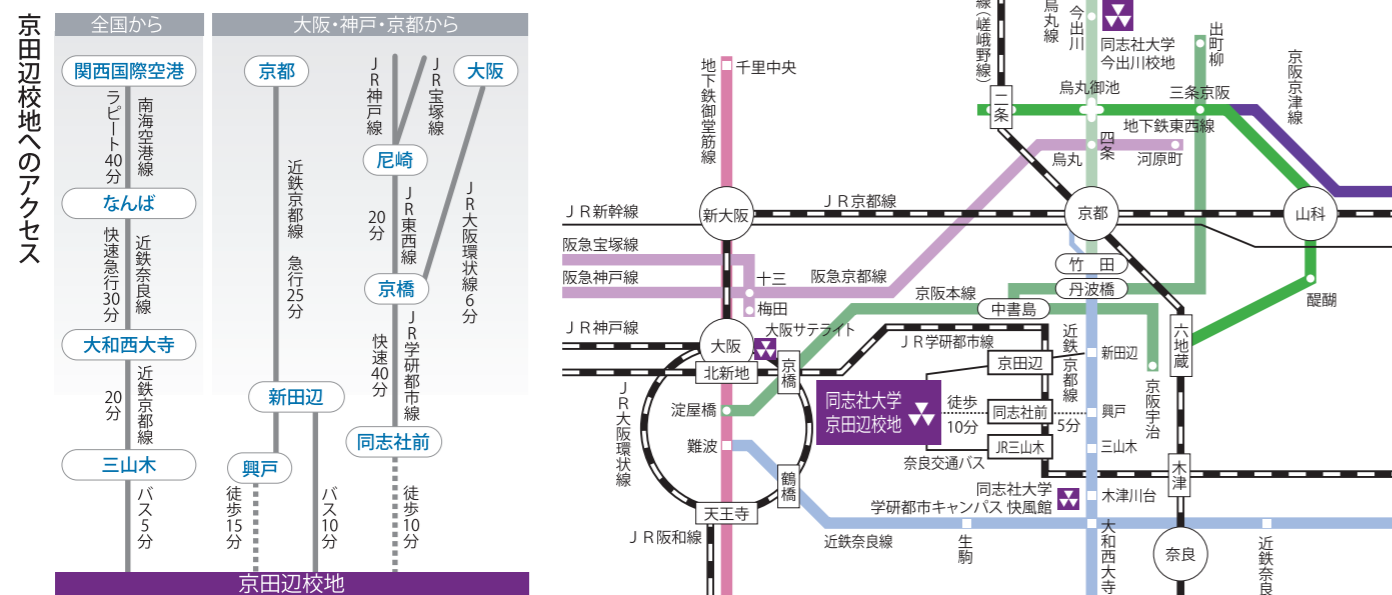
2017年1月13日、同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科と国立研究開発法人国立長寿医療研究センター(所在地:愛知県大府市)は、教育・研究に関する協定を締結しました。

国立長寿医療研究センター内の老年学・社会科学研究センターとの共同研究やスポーツ健康科学研究科学生の同研究センターでの研究活動によって、筋肉の萎縮や認知症の予防に関する研究の発展が今後期待されます。



## キャンパス

大学院スポーツ健康科学研究科の履修は京田辺校地で行います。



## 同志社大学 大学院 スポーツ健康科学研究科

お問い合わせは 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学 スポーツ健康科学研究科事務室 TEL.0774-65-6030 FAX.0774-65-6029  
 E-mail: jt-spoj@mail.doshisha.ac.jp http://sports.doshisha.ac.jp/graduate/

# 同志社大学 大学院 スポーツ健康科学研究科

Graduate School of Health and Sports Science  
 Master's Degree Program Health and Sports Science  
 Doctoral Degree Program Health and Sports Science

QOLのフロンティアへ

## 同志社大学 大学院

スポーツ健康科学研究科  
 スポーツ健康科学専攻

# リーダーシップへの科学

情報やモノが氾濫している、現代社会で人々は自宅やオフィスにいながらにして瞬時に世界の情勢に触れることができる。

その一方で、身体を動かす喜びから離れ、その方法すらわからないまま知らず知らず健康を損ってしまう人々がいる。

今、健康やスポーツへの関心がいまだかつてない高まりを見せている背景にはそんな現状に対する不安が横たわっている。

便利さを手に入れた現代人が、今、最も希求するのは生活の質(QOL)をいかに高めて生きるかということ。

その基本は健康にある。

そのQOLを高める有効な手段が、スポーツを楽しむことである。

老若男女を問わず、現代人がもっと自然に生活の一部としてスポーツに親しみ

健康な身体を維持する。そのような社会を創るためには健康を、スポーツを、

現代社会のさまざまな局面において的確に位置付け、

広い視野を持って根付かせていける「人材=力」が必要なのである。

それを手にする鍵は、社会が求めるリーダーシップへの科学的アプローチの中にある。



## 同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科の教育と研究

### 自由な学問的伝統が生む高い研究レベル

同志社大学では2008年に「スポーツ健康科学部」を開設。体育学が培ってきた方法論に隣接諸科学を組み合わせた総合応用科学として、健康増進とスポーツの発展に関わる多様な領域で活躍できる人材の養成を目指し、新たな学問領域を開拓しています。その学部教育をより高度に追究し、さらに深く広い専門的知識と理論を修得した高度専門職業人や研究者の養成を目的に開設したのが本研究科です。本研究科が立地する総面積79万m<sup>2</sup>の京田辺校地には、生命医科学研究科、理工学研究科、文化情報学研究科、心理学研究科が設置され、同志社大学の自由な学問的伝統の中で、さまざまな学問領域と連携をとりながら高度な教育研究を展開することができる環境が整っています。

### フレキシブルかつ有機的な教育システム

本研究科に設置されるのは、健康な身体づくりのための「健康科学」、最先端のアスリートにも対応するスキルアップのための「トレーニング科学」、そして社会に開かれたスポーツ環境を実現する「スポーツ・マネジメント」の3つの領域です。身体の構造や機能に関するスポーツ医学、生化学からスポーツ心理学、スポーツ・バイオメカニクス、トレーニング・コーチング論、そしてスポーツ政策論まで、多彩な特講を個々の研究課題に応じて体系的に組み合わせるとともに、生命医科学研究科をはじめ他研究科とも積極的に連携することによって、フレキシブルかつ有機的な教育システムを実現します。スポーツ健康科学と隣接する自然科学・社会科学を配置することによって、この学問領域の新たな展開と専門性のさらなる進化が期待できます。

### 自主性と広い視野を持った専門家の育成

本研究科は、隣接諸科学の先端的知見に通じ、健康とスポーツとが有機的に融合したスポーツ健康科学を体系的に教育・研究します。その成果を確かつ柔軟に、自主性と広い視野を持って現実に応用できる能力を有した高度専門職業人の育成、また新たな学問領域を開拓できる卓越した研究者の養成を視野に入れています。修了後の進路としては、博士(後期)課程への進学、学校教育における保健体育教員、民間の医療・健康関連企業、自治体等における生涯スポーツ指導者などが想定され、多様な領域において本研究科で修得した専門的かつ総合的な知見を応用し、社会のさまざまな分野で指導的役割を担うことができる人材を養成します。

### 修士課程から博士課程へ

2012年4月、スポーツ健康科学研究科は、修士課程から博士課程へと課程変更しました。これは2010年開設の修士課程において展開してきた教育研究をさらに深化させ、新たな枠組みの構築や深化した理論を提示できる人材を養成するためには、博士前期課程と博士後期課程双方の学術研究の高度化を一体化させた大学院運営が必要と考えたからです。これにより、大学・研究所等の教育・研究者はもとより、広く社会に貢献する民間の医療・健康関連産業や自治体等における超高度専門職業人を養成します。

## 教育プログラムの特色

### 遺伝子から個体、そして集団(社会)まで

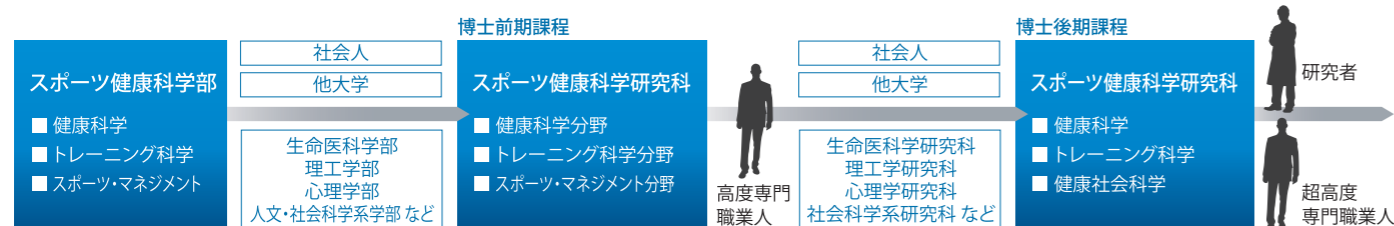
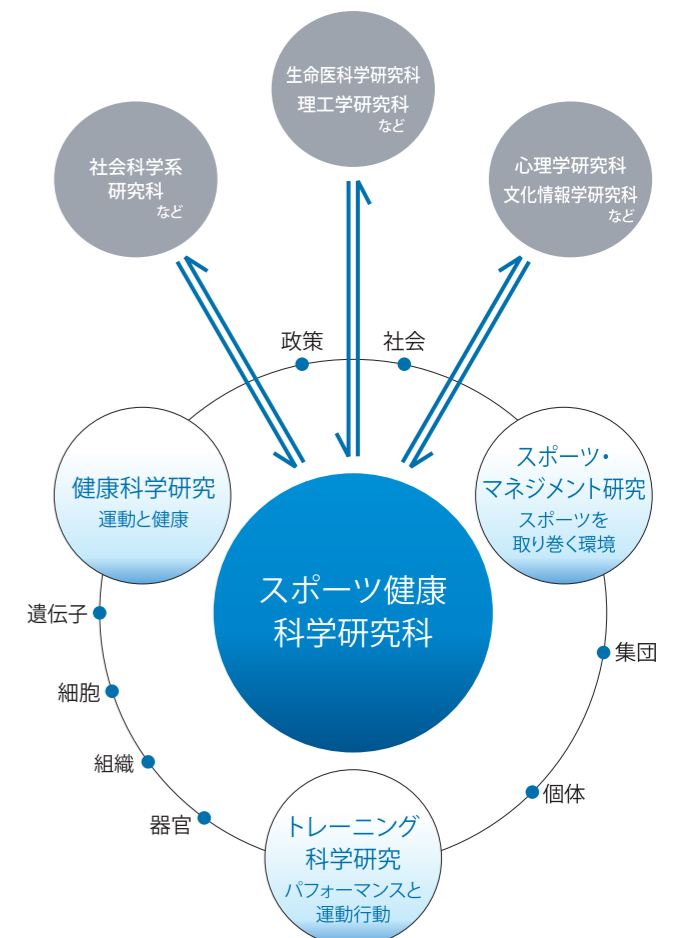
本研究科は、健康とスポーツ活動およびそれらを取り巻く社会環境に関する理論的・実践的諸問題をさまざまな視点から科学的に解明し、教授することを教育研究上の理念としています。そして環境への身体の適応と運動行動がもたらす反応を標的とした学術研究成果を発信し、その成果の社会的還元を総合的・包括的に実現すること、また、それらを担う高度専門職業人、研究者、教員を育成することを目的としています。

この目的を実現するために、本研究科が対象とするフィールドは「遺伝子から個体、そして集団(社会)まで」。体育学のほか、隣接諸科学である理工学、生命科学、心理学および社会学などの関連科目を配置し、教育研究を展開していきます。

たとえば遺伝子を対象とする場合、生化学、分子生物学あるいは遺伝子工学の知見と方法論の修得が不可欠です。またヒトの遺伝子型と生活習慣病やスポーツ能力との因果関係に関わる社会調査や

健康教育の領域においては、社会的知見と方法論への接続が課題となります。このように、スポーツ医学からスポーツ政策まで幅広い専門領域を内包する本研究科の教育の特色は、体育学が培ってきた方法論と隣接諸科学の知見・方法論を組み合わせ、双方向のダイナミズムを持たせることによって、総合応用科学たるスポーツ健康科学のより高度な進化を図ろうとする点にあります。

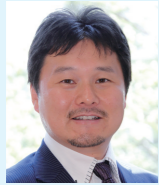
教育課程編成の基本方針は、多様な問題関心とキャリア形成志向を受け入れ、それぞれの研究課題を一貫して進化させるとともに、スポーツ健康科学内外の他領域に関する知見・理論を幅広く習得することです。そのために本研究科では「健康科学」「トレーニング科学」「スポーツ・マネジメント」の3分野を設定し、それぞれの研究領域を明確化し、その上で他領域との連携を図り、理論と実践、講義と演習の相互学修を通じて、自らの課題の追究と幅広い知見の獲得を目指します。



# 担当教員一覧

※各学系のアルファベット順に掲載 ○は、前期課程担当教員 ●は、後期課程担当教員 ☆は、前期の講義担当のみ

▼応用健康科学系



海老根 直之 准教授 ○

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
栄養 ■ スポーツ栄養学 ■ 人間栄養学 ■ エネルギー代謝  
■ 水分補給

研究テーマ .....  
食事により摂取されるカロリーと運動などで消費されるカロリーを結びつけた研究、ならびにヒトを対象に安定同位体トレーサーを用いた水代謝の研究など



石井 好二郎 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
運動処方 ■ 運動処方 ■ 発育発達 ■ 加齢・老化  
■ エネルギー代謝

研究テーマ .....  
小児から高齢者および有疾患者から競技者までの運動処方の開発・展開



柳田 昌彦 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
公衆衛生学 ■ 予防医学 ■ 運動疫学 ■ 栄養管理

研究テーマ .....  
①メタボリック・ロコモティブシンドロームを予防・改善するための最適なトレーニング方法の解明 ②NIPPON DATAに基づく国民の身体活動状況と生活習慣病危険因子との関連性

▼スポーツ医科学系



福岡 義之 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
生理人類学 ■ 低温低酸素環境の適応  
■ アスリート・コンディショニング ■ 衣服生理学  
■ 歩・走行能の人類進化 ■ 脊髄損傷の食事運動療法  
■ 呼吸循環機能の伝達関数モデル

研究テーマ .....  
ヒト歩行における全身的協同の環境適応・肺一循環一筋の連関に着目して低温・低酸素暴露下での呼吸一循環一体温システムの環境適応直列弾性モデルを用いたヒト骨格筋の弾性エネルギーの定量化と運動適性ヒトの移行速度と経済速度に関する人類学的検討マイクロナノバブル装置を用いたアスリートの疲労回復と暑熱環境適応



北條 達也 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
スポーツ医学 ■ スポーツ傷害 ■ 傷害予防 ■ 運動器 ■ 保存療法

研究テーマ .....  
スポーツ傷害の疫学・予防に関する研究ダンス競技(バレエ・チアなど)の傷害予防学童期運動器検診の有用性の研究運動器傷害に対する保存療法の研究



井澤 鉄也 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
スポーツ生化学 ■ 生活習慣病予防 ■ 体脂肪分布 ■ エネルギー代謝  
■ ホルモン ■ 細胞内シグナル伝達

研究テーマ .....  
運動の生活習慣病予防・改善効果の解明:①脂肪組織由来幹細胞の分化決定因子に及ぼす運動の影響、②時計遺伝子の発現リズムにもとづく運動処方の最適実施タイミングの追求

▼身体システム科学系



上林 清孝 准教授 ○

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
神経科学 ■ 運動制御・学習 ■ 脳計測 ■ 脊髄反射 ■ 筋電図  
■ 神経リハビリテーション

研究テーマ .....  
ヒトの身体運動における制御・学習メカニズムの神経生理学的研究、トレーニングや環境変化に対する脳神経系の適応に関する研究



中村 康雄 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
スポーツ・バイオメカニクス ■ 肩関節の運動解析 ■ スポーツ動作の解析

研究テーマ .....  
■ 野球、サッカー、ゴルフなどのスポーツ動作や日常生活動作の運動学的・動力学的解析  
■ 肩甲骨運動の無侵襲測定法の開発



若原 卓 准教授 ☆

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
生体ダイナミクス ■ 骨格筋の収縮特性 ■ 筋量分布 ■ トレーニング変化

研究テーマ .....  
①ヒト骨格筋のメカニクス・収縮特性 ②スポーツ選手の筋量分布 ③トレーニングによる筋形状・筋機能の変化



藤澤 義彦 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
スポーツ測定評価 ■ 資質判定 ■ 体力測定 ■ トレーニング  
■ 競技力向上

研究テーマ .....  
各種測定・実験・観察等から得られたデータの分析。競技力向上および健康関連体力等の向上に関する方策の検討。



竹田 正樹 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
スポーツ生理学 ■ 高所トレーニング ■ 体力トレーニング  
■ エネルギー代謝 ■ ノルディックウォーキング  
■ 認知機能

研究テーマ .....  
スポーツ競技力と身体トレーニングに関するスポーツ生理学的解明、ならびに高齢者の認知機能低下予防や幼児にとっての必要な運動トレーニング方法の解明



石倉 忠夫 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
スポーツ心理学 ■ 運動技能学習 ■ 心理的スキル ■ 観察学習  
■ 示範提示法 ■ 注視運動

研究テーマ .....  
スポーツ・体育心理学からのアプローチ:スポーツ・スキルの習得や向上を能率的に促進する練習・指導法とは?試合で実力発揮できる心理的スキルとは?



田附 俊一 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
身体教育学 ■ スポーツと運動の指導法 ■ 陸上競技のコーチング  
■ からだ・運動・スポーツ・遊びと教育  
■ 種目横断型ボールゲーム(Ballschuleなど)  
■ 「わざ」

研究テーマ .....  
スポーツ種目別指導法(運動学)、スポーツ種目並びに運動に共通する指導法(運動学)、種目横断型ボールゲーム(ドイツのBallschule)と球技空間での「身のこなし」、身体運動を用いた教育(ドイツの「身体経験や運動を介した幼稚園:Bewegungskindergarten・学校:Bewegte Schule」)



二宮 浩彰 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
スポーツ・マーケティング ■ スポーツ消費者行動 ■ マーケティングリサーチ  
■ スポーツツーリズム

研究テーマ .....  
スポーツ産業の発展、スポーツによる地域活性化、生涯スポーツの普及にかかわるスポーツ・マネジメント



庄子 博人 准教授 ☆

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
スポーツビジネス ■ スポーツビジネス ■ スポーツ経済  
■ スポーツ産業

研究テーマ .....  
官民連携によるスタジアム・アリーナの新たなビジネスモデルの開発  
国民経済計算に基づいたスポーツ産業規模の推計



横山 勝彦 教授 ○●

研究分野 ..... 研究キーワード .....  
スポーツ政策 ■ 政策ネットワーク ■ スポーツと地域政策  
■ 学校体育政策 ■ スポーツと産業

研究テーマ .....  
スポーツ政策の形成過程、スポーツとコミュニティ形成、スポーツによる人材育成、スポーツ組織形態のイノベーション

## スポーツ健康科学研究科 博士課程

### 【前期課程】

#### アドミッション・ポリシー

スポーツ健康科学研究科博士課程(前期課程)は、「スポーツ」と「健康」が有機的に融合したスポーツ健康科学をより高度に、体系的に修得・研究し、その成果を教育・研究機関、医療機関、スポーツ・健康関連産業、地方自治体等において、広い視野からの確かつ柔軟に応用実践できる高度専門職業

人、及びグローバルな視野から独創的に課題探究できる研究者を養成することを目的としています。そのために、出身大学・学部に関わらず広く門戸を開いて、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

#### スポーツ健康科学研究科博士課程(前期課程)の求める学生像

1. スポーツ科学や健康科学などに関する基礎的な知識や技能、論理的思考力、及び外国語の読解・表現能力等を十分に有する学生。
2. 国際的な視野と感覚を持ち、スポーツ科学や健康科学に関する高い水準の独創的な研究を遂行する意志と能力を有する学生。
3. 同志社大学の自由な学問的伝統の中で、様々な学際領域と連携をとりながら高度な研究を展開する意志と能力を有する学生。

#### 目指すべき人材(物)像

健康とスポーツに対する現代的関心と欲求の増大に応じて、「健康」と「スポーツ」が有機的に融合したスポーツ健康科学を体系的に習得し、その成果を大学・研究所、医療・健康関連産業、民間企業や地方自治体等において、的確かつ柔軟に、現実に対応できる能力を有する高度専門職業人、および広範囲な研究能力の涵養と新たな学問領域の開拓が期待できる卓越した研究者。

#### 研究指導スケジュール【前期課程】

1年次	2年次
4月 ■ 研究課題の提出 指導教員の決定 指導計画の検討 研究課題・研究計画に対する指導	4月 ■ 研究課題・研究計画に対する指導
8月 ■ 研究計画・執筆計画発表会 研究課題・研究計画に対する再指導 研究計画・執筆計画書の提出	8月 ■ 中間発表会 中間報告書の提出
	12月 ■ 修士論文または課題研究論文提出 予備審査会 修士論文または課題研究論文に対する修正・加筆など
	2月 ■ 論文最終試験 論文の審査および修了判定

※修士論文提出者には学会発表を推奨し、研究成果の論文発表を期待する。 ※課題研究論文提出者は、成果を学術誌等に総説あるいは解説論文として投稿することを推奨する。

### 【後期課程】

#### アドミッション・ポリシー

スポーツ健康科学研究科博士課程(後期課程)は、遺伝子、細胞等のミクロレベルから集団レベルにまでわたる様々な身体運動を巡る自然科学および社会科学的知見を正しく理解するとともに、スポーツ健康科学の独創的かつ先端的な研究を推進することができる能力をもち、国際的にも健康とスポ

ーツの学際的・包括的展開に貢献し、成果を社会に還元できる人材を養成しています。そのために、出身大学・学部に関わらず広く門戸を開いて、次のような優秀かつ高度な能力を持つ学生を求めています。

#### スポーツ健康科学研究科博士課程(後期課程)の求める学生像

1. スポーツ健康科学の先端的専門知識と技術の運用に習熟している学生。
2. 独創的かつ先端的な研究を推進するために必要な論理的かつ柔軟な思考能力をもっている学生。
3. 国際的な社会貢献を目指して先端的な学術情報を的確に発信できる能力をもっている学生。

#### 目指すべき人材(物)像

隣接諸科学の先端的知見とスポーツ健康科学の専門的知識を修得し、その成果を的確かつ柔軟に応用、運用できる能力を身に付けて、大学・研究所において広範囲な研究能力を発揮して新たな学問領域の開拓をする研究者や、医療・健康関連産業や地方自治体等において、学際的かつ高度な専門性を生かして活躍する超高度専門職業人。

#### 研究指導スケジュール【後期課程】

1年次	2年次	3年次
4月 ■ 研究課題の提出 指導教授の決定 指導計画の検討 研究課題・研究計画に対する指導	4月 ■ 研究課題全体の進捗状況の再確認と個別指導	4月 ■ 研究課題に対する個別指導
8月 ■ 研究計画・執筆計画発表会 研究課題・研究計画に対する再指導 研究計画書の提出	8月 ■ 中間発表会 研究課題・研究計画に対する再指導 中間報告書の提出	8月 ■ 全体討論会
1月 ■ 研究進捗状況の確認	1月 ■ 研究進捗状況の確認	11月 ~ 12月 ■ 博士論文提出 予備審査会 博士論文に対する修正・加筆など
		1月 ~ 2月 ■ 論文最終試験 論文の審査および修了判定

## 最新鋭の教育・研究施設

スポーツ健康科学研究科の拠点である磐上館には、スポーツ医学実験室やバイオメカニクス実験室をはじめ数々の実験・実習施設を完備。なかでも2009年、運動生理学実験室に完成した「人工環境制御室」と「ヒューマン・カロリメーター」は、西日本の大学・研究所では初の導入となる最新鋭の大型実験設備です。人工環境制御室とは、室内の温度と湿度を厳密に制御することによって多様な環境下(暑

熱条件下での競技会の環境を再現するなど)での代謝の測定や運動負荷試験の実施を可能にするもの。また、空気中の酸素濃度を増減させることによって、酸素分圧が低い高所でのトレーニングや、高濃度酸素ガスによる疲労回復効果なども検証することができます。この人工環境制御室に併設された「ヒューマン・カロリメーター」は、室内の人間が消費するエネルギー量や、そのエネルギーの基質と

して何をどれくらい燃焼させているかを測定する装置。従来のように鼻と口にマスクを着着することなく、自由に活動できる条件下でエネルギー代謝測定を行うことができます。本装置は、スポーツ健康科学の教育研究に有用であるとともに、トレーニングウェアの開発や運動器具の効果の検証といった産学連携の研究開発にも活用していくことが期待されています。

### スポーツ健康科学教育研究棟 磐上館



ラーニングテリア



運動生理学実験室



PCルーム



バイオメカニクス 実験室



シールドルーム



コンディショニングルーム



分子生物学実験室



トレーニング科学実験室